人工授精によるツシマヤマネコの繁殖および繁殖子の人工哺育

薄井　正
（よこはま動物園）

ツシマヤマネコ（*Prionailurus bengalensis euptilurus*）は長崎県対馬に生息するベンガルヤマネコの亜種で，イリオモテヤマネコと並び，国内に生息する野生のネコ科動物である．だが 1980 年代から生息地の分断・減少が確認され，1991 年に公表された環境庁（当時）レッドデータブックでは絶滅危惧種とされている．環境庁は 1995 年に「ツシマヤマネコ保護増殖事業計画」を策定し，翌 96 年に福岡市動物園で飼育が開始された．その後，2000 年に同園で飼育下繁殖に成功し，順調に繁殖を重ねていた．よこはま動物園では，ツシマヤマネコ保護増殖事業計画に賛同・協力し，生息域外保全および危険分散の目的で 2006 年より飼育繁殖を試みているが，これまでに成功したことはない．その一方で，福岡市動物園をはじめ，ツシマヤマネコ飼育園館で繁殖は見られるものの，安定した飼育下個体群を維持できているとは言い難く，2011 年の 35 頭をピークに減少傾向にあった．

2014 年に締結された（公社）日本動物園水族館協会と環境省との「生物多様性保全の推進に関する基本協定書」により，曖昧であった飼育園館の役割が明確化され，よこはま動物園は「飼育下繁殖推進施設」として，自然繁殖・人工繁殖・栄養評価に取り組むことになった．

2017 年度よりウンピョウ，チーターに於いて腹腔鏡を用いた人工授精に取り組んでおり，その実績が評価され，2019 年度より「飼育下繁殖推進施設」に加え，「人工繁殖推進施設」として取り組むことになった．同年度はメス 1 頭へ AI を実施したが，繁殖には至っていない．

翌 2020 年度は 2 頭に AI を実施したところ，2021 年 3 月 18 日に 1 頭の産子を得て、人工哺育で生育したため，報告する．